

2022 年 日本小児泌尿器科学会優秀論文賞 臨床研究部門

Long-term outcomes of living-donor kidney transplant children weighing less than 15 kg: Comparison of the surgical approach

青木 裕次郎（東邦大学医学部 腎臓学講座（大森））

このたびは名誉ある日本小児泌尿器科学会優秀論文賞を賜り、誠にありがとうございます。光栄な賞をいただき大変うれしく思っております。また、審査いただきました先生方ならびに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

私は、医学部臨床実習の場において、長谷川昭教授の小児腎移植に魅了され、卒業後から一貫して腎移植と慢性腎臓病の診療に従事して参りました。2012 年からは、東京都立小児総合医療センターにおいて、小児泌尿器科と小児腎不全・腎移植に関する診療および研究を中心に行ってまいりました。

本研究は、東京都立清瀬小児病院（東京都立小児総合医療センターの前身）で行われてきた 15kg 未満の低体重児の腎移植において、術式別による外科合併症と移植成績を示したもので、高度な手術手技と周術期管理を必要とする潜在的な危険性の高い小児腎移植において、後腹膜到達法は経腹膜到達法と比較して、早期・晩期の外科合併症の頻度は低く、技術的にも安全であることを報告しております。この結果は、これまで小児腎不全医療にご尽力いただいた諸先輩医師をはじめ、患児とその家族を支えた多くの医療従事者のお陰だと思っております。小児腎移植に関する長期的な予後についての報告は少なく、本研究の新規性と将来性をご評価いただいたものと謙虚に受け止め、本受賞を励みにより一層精進してまいります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

最後に、常日頃よりご指導いただいている宍戸清一郎先生、佐藤裕之先生をはじめ、多くの先生方にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。